

平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立石井小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	109人	算数	109人	理科	109人
第5学年	国語	111人	算数	111人	理科	113人

5 留意事項

(1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

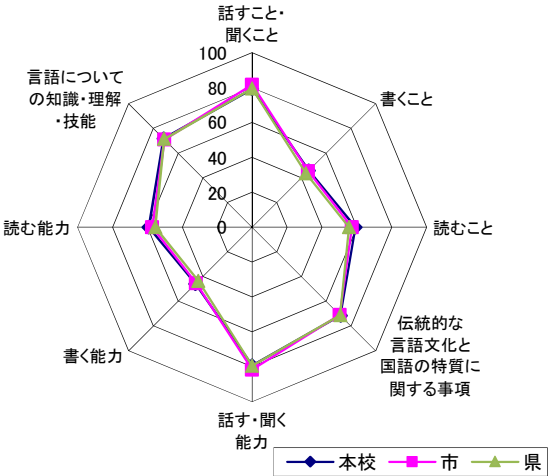
(2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立石井小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	79.2	81.6	79.4
	書くこと	45.9	45.4	43.6
	読むこと	59.2	57.2	55.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	71.7	71.1	71.4
観点	話す・聞く能力	79.2	81.6	79.4
	書く能力	45.9	45.4	43.6
	読む能力	59.2	57.2	55.5
	言語についての知識・理解・技能	71.7	71.1	71.4



★指導の工夫と改善

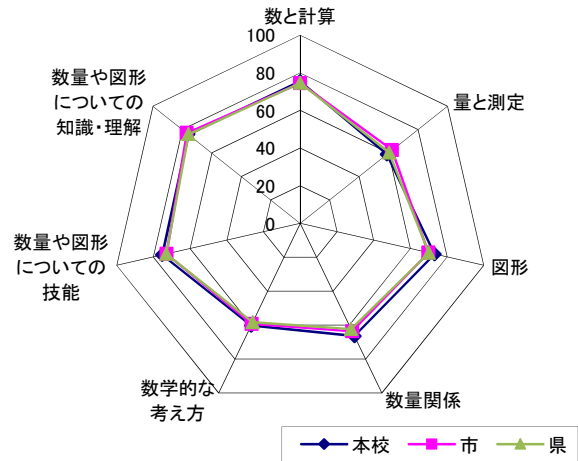
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は、県の平均をやや下回っている。 ○「理由を挙げながら筋道を立てて話すこと」に関する問題の正答率は、県の平均より高い。 ●「話し合いにおいて司会者の役割を理解し、進行すること」に関する問題の正答率は、県の平均より低い。	・国語だけでなく他の教科においても、グループでの話し合い活動の際には、司会を当番制にし、誰もが経験できるようにする。初めは、マニュアルを用いて行い、徐々に自分の言葉で司会進行ができるように指導していく。
書くこと	平均正答率は、県の平均をやや上回っている。 ○「文章構成を意識して、報告レポートを書く」に関する問題の正答率は、県の平均より高い。 ●「メモをもとに、適切な内容を書く」に関する問題の正答率は、県の平均とほぼ同じであった。	・国語だけでなく他の教科においても、調べて分かったことを文章にする活動では、大事なことを落とさず、分かりやすく伝える工夫ができるよう指導していく。
読むこと	平均正答率は、県の平均をやや上回っている。 ○「文章の要点や細かい点に注意しながら読み、整理する」と「登場人物の気持ちを想像して読む」に関する問題の正答率は、県の平均より高い。 ●「中心の語や文を捉えて読む」「文章を読んで感じたことや考えたことを発表する」に関する問題の正答率は、県の平均より低い。	・文章に合った適切な言葉を探すときは、前後の文との関係を意識して選ぶよう指導していく。 ・説明的文章では、分かったことを表に整理して比較させ、さらに理解を深められるように継続的に指導していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は、県の平均をやや上回っている。 ○「国語辞典の使い方」に関する問題の正答率は、県の平均より高い。 ●「漢字の書き」に関する問題の正答率は、県の平均より低い。	・漢字を学習する際は、一つの漢字から、熟語を集めたり、その文字を使った短文を作ったりして、活用に力を入れていくようにする。 ・漢字辞典や国語辞典を普段からすぐに使用できる環境を整えておく。

宇都宮市立石井小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	75.5	74.5	74.6
	量と測定	58.9	62.4	60.4
	図形	73.2	69.9	70.1
	数量関係	66.4	63.6	62.3
観点	数学的な考え方	60.2	59.2	58.3
	数量や図形についての技能	75.2	72.9	73.0
	数量や図形についての知識・理解	76.0	77.1	76.0



★指導の工夫と改善

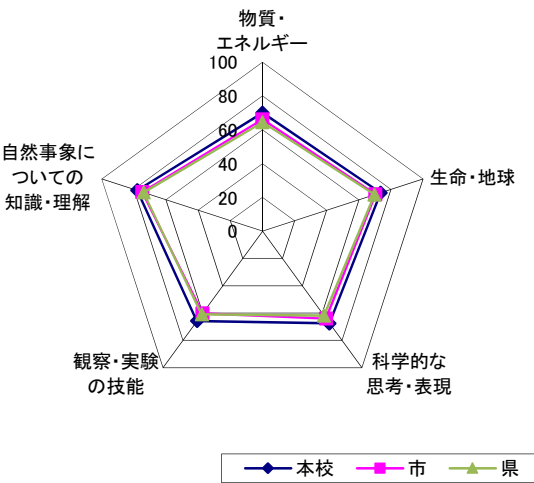
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、県や市の平均よりやや高い。 ○整数や小数の四則計算に関する問題の正答率は、市や県の平均を上回っている。特に整数－小数の計算の正答率が高い。 ●1万を超える数の数直線の1目盛りの大きさを読み取る問題では、市や県の平均より低い。 ●余りのある除法の計算の答えを確かめる式を完成させる問題では、市や県の平均より低い。	・数直線を描く活動を多く取り入れ、目盛りの読み方に慣れさせる。 ・計算練習をする際には、必要に応じて確かめ算をする機会を増やし、確かめ算の方法の定着を図る。
量と測定	平均正答率は、県や市の平均より低い。 ○木の幹の周りの長さを測るのに適した道具を選ぶ問題では、市や県の平均より高い。 ●ある時刻に間に合う一番遅い電車の発車時刻を求める問題では、市や県の平均より低い。	・日頃から時刻や時間を実生活の中で意識させる。授業中には、時計の模型を用いて時間の量感覚を身に付けさせる。
図形	平均正答率は、県や市の平均より高い。 ○正方形に内接する円の直径の長さを選ぶ問題では、市や県の平均より高い。 ●折り紙を2つに折って切った後、広げてできる形を選ぶ問題では、市や県の平均より低い。	・実際に自分で図形を作る体験を通して、図形概念を捉えさせ、それをもとに図形を操作していく想像力を育てる。
数量関係	平均正答率は、県や市の平均より高い。 ○棒グラフが表している大きさを正しく読み取ったり、それから分かる内容を選ぶ問題の正答率は、県の平均より高い。 ○未知の数量を口として数量関係を線分図に表わす問題の正答率が県の平均より高い。	・数量関係の領域では、引き続きグラフや図に表す活動を積極的に取り入れ、さらなる習熟を図っていく。

宇都宮市立石井小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	70.0	66.1	64.4
	生命・地球	73.5	70.4	69.8
観点	科学的な思考・表現	67.5	64.1	61.9
	観察・実験の技能	65.8	60.2	61.0
	自然事象についての知識・理解	77.9	74.8	74.0



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は、県や市の平均よりも高い。 ○磁石の性質をもとにそれを利用したおもちゃの仕組みを考える問題がよくできている。 ○電気を通すものと通さないものをよく理解している。 ●天秤が釣りあうことから物の重さを推測することに課題がある。 ●豆電球のつきかたから箱の中の回路の様子を推測することに課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・天秤を使って重さ比べをする際、同じ重さで体積が大きく違うものを意図的に何種類か準備し、どちらが重いか予想させてから実際に天秤にのせてみたり、電子天秤で重さを量ってみたりする活動を十分に時間をとって行うようにする。 ・豆電球を使った実験をする際、回路を自由に考えさせ、明かりがつかどうかを予想させてから実験するようにする。
生命・地球	平均正答率は、県や市の平均よりも高い。 ○昆虫の体の色とすみかとの関係について考察することがよくできている。 ○温度の記録から日なたの温度計を選び、その理由を説明することがよくできている。 ●時間による影の変化の仕方を推測することに課題がある。	・太陽と影の動きについては、身近な天体(太陽や月)の動きや天気の変化(雲の形・風・気温)を意識して日常の話題にし、関心をもたせるようにする。

宇都宮市立石井小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「社会参画力」においては肯定的回答の割合が県の平均と比べて8.4%上回っている。TVやニュース、インターネットなどを通して社会に対する関心が高いので、引き続き児童が自主的に調べるような投げかけをしていきたい。

○「感じ取る力」に関する設問において「勉強していて楽しいことがある」「学習して身に付けたことは将来役に立つ」の肯定的回答の割合が90%と高い。一方、「難しい問題に会うとよりやる気がでる」「本やインターネットを利用して勉強に関する情報を得ている」の肯定的回答の割合は51.4%と低い。今後は、自ら課題を見つけて調べていく力を身に付けさせたい。

○「自分には、よいところがあると思う」の肯定的回答の割合は88.1%で、県や市の平均と比べ5ポイント以上高く、日頃から児童を認め励ます指導や友達のよさを伝え合う活動などを実施し、自己肯定感の育成に努めている成果であると考えられる。引き続き、児童のよさを生かせるような指導を心掛けていきたい。

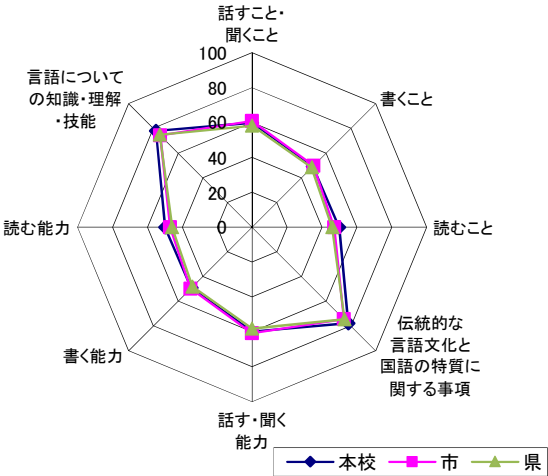
●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」の肯定回答の割合は62.4%で、県より3.7ポイント、市より0.4ポイント高く、文章表現に苦手意識があることが分かる。様々な機会を捉えて、自分の考えを端的に記述する力の向上に努めていきたい。

●「学校のきまりを守っている」の肯定回答の割合は90.8%で、県より0.7ポイント、市より1.6ポイント下回っており、規範意識が低いことがうかがえる。「石井っ子の生活」を活用し、生活を振り返ったり、できている児童をほめたりしながら、規範意識を高めていきたい。

宇都宮市立石井小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	59.8	60.8	58.1
	書くこと	49.2	49.8	48.3
	読むこと	49.8	47.0	45.9
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	77.9	74.4	74.8
観点	話す・聞く能力	59.8	60.8	58.1
	書く能力	49.2	49.8	48.3
	読む能力	49.8	47.0	45.9
	言語についての知識・理解・技能	77.9	74.4	74.8



★指導の工夫と改善

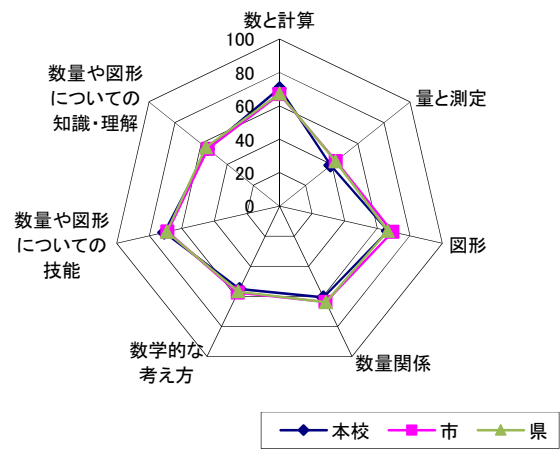
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は県の平均よりは高いが、市の平均よりはやや低かった。 ○「話し合いにおいて司会者の役割を理解し進行する」はよくできている。 ●「話し合いの中で意見の共通点を考えて書く」は正答率が低い。	・話し合いの場では司会者を位置付け、建設的な話し合いが展開できるように配慮する。 ・友達の意見を聞くとときには、共通点や相違点に気を付けながら聞けるように指導する。
書くこと	平均正答率は県の平均よりはやや高いが、市の平均よりはやや低かった。 ○「資料(表)を基に説明する」は正答率が高く、県と市の平均を大きく上回った。 ●「インタビューの結果を基に必用な内容を整理して書く」は、県・市の平均を大きく下回った。	・目的や意図に応じ内容の中心を明確にして詳しく書けるようにするために、複数の情報から書くという学習を積んでいく。 ・授業の中で、子供たちに条件を与えて書かせるようにする。(50字以内で書くようにするなど。) ・作文やパンフレットなど、様々な形態の文章を書く過程において、文章や図・イラストなどを活用する目的や意図をより意識させながら、取り組ませていく。
読むこと	平均正答率は県と市平均より高かった。 ○説明文の「段落に要点を捉えて要約する」と文学作品の「叙述を基に登場人物の気持ちを想像して読む」は県・市の平均を大きく上回った。 ●文学作品の「登場人物についての描写から心情を想像して読む」は県・市の平均を大きく下回っている。	・朝の読書の時間を活用し、教科書に出てくる本を読ませることで、たくさんの優れた文章に触れさせるようにする。 ・必要な情報を得るために、自分の目的に応じて適切な段落や部分を選んで読むことが苦手である。何を問われているかを明確にし、どのように読めばよいのか確認しながら取り組ませていく。 ・文学作品を学習するときに、描写からどんな心情が読み取れるか全体で押さえるようにする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は県や市の平均より高かった。 ○「漢字の読み」は平均正答率が9割を上回っており、今までの取組が定着につながっている。 ●「漢字辞典の使い方」「ローマ字の読み方」は県・市の平均を下回っている。	・国語辞典や漢字辞典を使った授業を展開したり、家庭学習に広げたりして辞典の正しい使い方の理解へと繋げていく。 ・朝の学習や家庭学習を使って、ローマ字の復習を定期的に行うようにする。 ・漢字の書きについての確認テストを定期的の実施することで児童の理解度を把握するとともに、結果に応じて家庭学習の課題として示すなど理解力の向上や学習への自信へと繋げていく。

宇都宮市立石井小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	70.5	66.9	67.4
	量と測定	39.1	43.2	43.0
	図形	66.7	69.4	66.5
	数量関係	60.7	63.7	63.9
観点	数学的な考え方	55.2	57.5	56.8
	数量や図形についての技能	70.8	68.8	69.3
	数量や図形についての知識・理解	55.0	54.9	56.4



★指導の工夫と改善

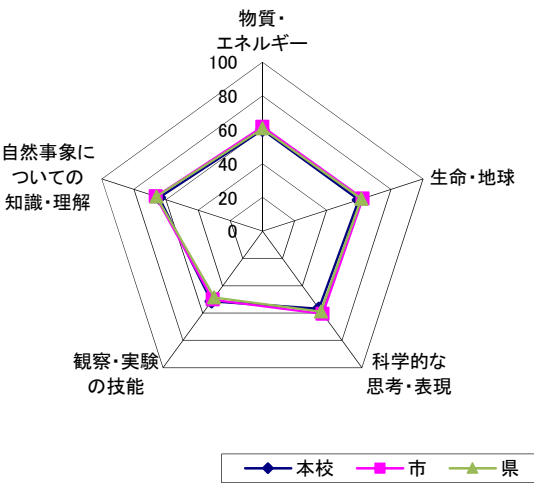
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、県の平均を3.1ポイント上回った。 ○「1000円以内で全部買えるかを見積もる。」問題の正答率が、県や市の平均に比べ、8ポイント以上高い。 ○倍で表された数量関係の場面についての問題の正答率が高い。 ●「3位数×2位数」の計算の正答率が県や市に比べて、やや低い。 ●「基準量よりも比較量の方が小さい場面で何倍かを求める。」の正答率が低い。	・計算ドリル等を活用し、既習した計算を正確にできるよう、繰り返し練習させる。 ・文章問題の事柄や関係を、図に表したり数直線に表したりするなどの算数的活動を積極的に取り入れる。
量と測定	平均正答率は、県や市の平均を約4ポイント下回っている。 ●「図をもとに180度より大きい角度の求め方を説明する。」の正答率が10ポイント以上低い。 ●「1mの正方形の辺に1cmの正方形が何枚並ぶかを求める」などの問題では、正答率が低い。	・180度より大きい角度の求め方や作図について、朝の学習や家庭学習などで復習させる。 ・図で表された事柄を言葉、数、式などを用いて考え、説明できるようにする活動を多く取り入れる。
図形	平均正答率は、県の平均をやや上回っている。 ○「平面上にあるものの位置を表す。」では、県や市の正答率に比べ、3ポイント以上高い。 ●「与えられた2辺の続きをかいて、平行四辺形を完成する。」という設問の正答率が、県や市の平均より7ポイント以上低い。	・三角形、四角形などの作図の学習を繰り返し行い、定着を図る。
数量関係	平均正答率は、県や市の平均を約3ポイント下回っている。 ○「一人の考え方を選び、一つの式に表し、お釣りを求める」の問題では、県や市の正答率に比べ、8ポイント以上上回っている。 ●「ブロックの並べ方と、ブロックの個数の関係を式で表す。」では、県や市の平均より正答率が低い。 ●二次元表の欄に当てはまる数を求める。」では、県や市の平均より正答率が低い。	・図や式、言葉で表現するなどの算数的活動を繰り返し行うようにし、筋道を立てて考える力を高める。 ・具体物を使った活動を積極的に取り入れ、指導していく。

宇都宮市立石井小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	59.9	61.7	60.7
	生命・地球	60.0	62.4	61.6
観点	科学的な思考・表現	56.9	60.6	58.9
	観察・実験の技能	51.3	50.1	48.6
	自然事象についての知識・理解	64.3	66.3	66.0



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は、県や市の平均よりやや低い。 ○どの内容も授業の中で実際に実験や観察をした基礎的な内容に関する問題の正答率が高い。 ○「金属、水、空気と温度」のものの温度と体積、とじこめた空気や水の性質についての問題は正答率が90%を超えているものがある。 ●「空気と水の性質」のボットのしくみについての活用問題に関しては正答率が34.5%と低い。 ●「金属、水、空気と温度」の湯気と水蒸気の区別についての問題の正答率が低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・実際に見たり体験したりした内容については、十分に理解されているので、今後でもできるだけ授業の中で実験や観察を丁寧に扱っていくようにする。 ・理科で学習した内容が日常生活のどのような場面で役立っているのかについて調べたり、まとめたりする時間を確保していくようにする。
生命・地球	平均正答率は、県や市の平均より低い。 ○「人の体のつくりと運動」の正答率は85.4%と県や市の正答率より約4ポイント上回っている。 ○「季節と生物」の正答率に関しては、県や市の正答率とほぼ同じであるが、実際に自分たちで栽培、観察したヒョウタンについては、季節ごとの植物の様子を理解していることが分かる。 ●「天気の様子」の正答率は、50.1%と市の正答率とほぼ同じであるが、空気中の水蒸気を扱った記述式の活用問題の正答率が18.6%と極めて低い。 ●「月と星」では方位磁針の使い方や月の動きを方位で表す問題の正答率が低い。	・毎日の生活の中で、方位を意識させる声掛けをしたり、他教科の学習と関連付けたりしていくことで、方位と自然現象(月、星、太陽、天気)の関連について考えさせていくようにする。 ・「目に見えないもの」を理解させるためにモデル図をかかせたり、科学的な言葉を使って言語化させたりする学習活動を授業の中に位置付けていく。 ・「課題に対する予想を立てる」「目的意識や見通しをもって実験、観察をする」「結果を記録し話し合う」「考察しまとめる」の流れを明確にした授業を展開し、自然の事物・現象を科学的に探究する力を育てる。

宇都宮市立石井小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家の人と将来のことについて話すことがある」「家の人と学習について話をしている」「家でできまりや約束を守っている」「勉強して、おもしろい、楽しいと思うことがある」「難しい問題にであうとよりやる気が出る」「先生は学習のことについてほめてくれる」「自分の行動や発言に自信をもっている」「本やインターネットなどを利用して勉強に関する情報を得ている」「勉強していて、『不思議だな』『なぜだろう』と感ずることがある」という設問に肯定的に回答した児童の割合は、県や市の平均よりも高い。勉強に対しての肯定的回答が多く、意欲的に学習に取り組もうとしていることが分かる。また、教科に関する調査で正答率の高い児童は、「家の人と学習のことについて話す」という設問への肯定的回答率も高いことから、学力と相関関係にあることが分かる。今後とも、学校と家庭が連携し、児童の努力や成長を見守り励ましていきたい。

●「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」という設問に肯定的に回答した児童の割合は、県や市の平均よりも低い。睡眠時間の調査からも睡眠時間が8時間に満たない児童がおよそ28%おり、不足している児童が多くいることが分かる。この状況を家庭に知らせ、学習塾やスポーツクラブの活動時間を見直す等して、改善できるように連携を図りたい。

○「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている」「地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある」「自分がもっている能力を十分に発揮したい」「人と話すことは楽しい」という設問に肯定的に回答した児童の割合は、県や市の平均よりも高い。学習を通して社会の出来事に興味関心をもてるような働きかけや人間関係の醸成に取り組んでいる成果だとうかがえる。

●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」という設問に肯定的に回答した児童の割合は、県や市の平均よりもやや低い。また、「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いている」でも、市や県の割合をやや下回っている。自分の考えをもてるような時間の確保や手立てが必要であると考えられる。また、話し合い活動では一人一人が自分の考えを説明したり少人数で話し合ったりする活動を効果的に取り入れた授業づくりを工夫していきたい。

○「学級力(学び合う集団の形成)」では、ほとんどの項目で8割以上の肯定的回答があり、良好であるといえる。特に「グループなどの話し合いに自分から進んで参加している」「授業の最後に学習したことを振り返る活動をよくしている」の項目が市や県の割合を大きく上回った。

○「家で自分で計画を立てて勉強している」「家で宿題のほかに自分で考えた学習をしている」「家で勉強するときはだいたい同じ時刻に取り組むようにしている」という設問で肯定的回答が、県や市の割合を大きく上回った。

●「家で学校の授業の予習をしている」「家で学校の授業の復習をしている」という設問に肯定的に回答した児童の割合は、県や市の平均よりも低い。今後も家庭との連携を図りながら児童が自主的に家庭学習に取り組めるように学習の仕方や内容を指導していきたい。

○社会の「歴史上の人物やできごとを扱っているテレビを見たり本を読んだりするのは好きだ」「自然や宇宙など、科学の内容を扱っているテレビを見たり本を読んだりするのは好きだ」という設問での肯定的回答が、市や県の割合を上回った。

●理科の「将来のために大切だと思いますか」という設問で、肯定的回答が県や市を下回った。理科の学習内容が生かされている場面を紹介するなどして、自分の生活と関連があることに気付かせたい。

宇都宮市立石井小学校 (第4・5学年共通)
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
授業におけるまとめ・振り返りの充実	授業のはじめに目標(めあて・ねらい)を示し、最後に学習内容を振り返る活動を計画的に取り入れ、「ねらい」から「振り返り」までのつながりを意識した指導をしている。	5年生児童の肯定的回答の割合を見ると、昨年度4年生だったときと比べて「授業の中で、目標(めあて・ねらい)が示されている」では5ポイント、「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている」では7.1ポイント、「授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている」では2.2ポイント、それぞれ増加している。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	「石井っ子の学習」「家庭学習のすすめ」「家庭学習の進め方」を活用して家庭学習への意識の向上を図るとともに、内容や進め方等について各学級で指導している。また、学級懇談会等の話題にし、保護者の理解や協力を得られるようにしている。	「家で、学校の宿題をしている」に肯定的に回答した児童の割合は、4年生が96.3%、5年生が100%と高い。また、自ら取り組む態度に関わる「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」への肯定的回答は、4年生が76.9%、5年生が74.3%で、ともに県や市の平均よりも10ポイント程度高く、「家で、自分で計画を立てて勉強している」では、5年生は82.3%で県や市の平均よりも10ポイント以上高いが、4年生は68.8%で県や市の平均とほぼ同じである。さらに、「家で、学校の授業の予習・復習をしている」については、県や市の平均とほぼ同じか、やや低い傾向にある。
言語活動の充実	授業の中で、協働的な学習を積極的に行い、一人一人が考えを発表し合う活動を取り入れたり、自分の考えを書く時間を確保したりしている。	「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」に肯定的に回答した児童の割合は、4年生が78.9%、5年生が81.3%と、どちらも県や市の平均を大きく上回っている。また、「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられている」に肯定的に回答した児童の割合においても、4年生が85.3%、5年生が84.8%と、どちらも県や市の平均より高い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査において、いくつかの情報を基に整理して書くような記述式設問における正答率が県や市の平均よりも低い傾向にある。また、質問紙では「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」という設問に肯定的に回答した児童の割合が県の平均よりも高い。	条件に応じて自分の考えを書く活動の充実	様々な機会を捉えて、自分の考えを端的に記述する活動や、複数の資料から目的に合った情報を抜き出してまとめたり、メモを基に文章を書いたりする活動を取り入れていく。また、自分の考えを書く際に、字数や使用しなければならぬ語句の条件を段階的に増やすなどの提示の仕方を工夫し、条件に合わせ、自分の考えをまとめて記述する力を養っていくようにする。さらに、始めから完璧な解答を求めずに、児童に寄り添いながら思考の過程を励ますことで自信をもたせたり、友達のよい文章を提示して参考にさせたりし、諦めずに挑戦する意欲を高めるようにする。